

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県立刈谷北高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒448-0846
愛知県刈谷市寺横町1丁目67番地
E-mail karikita0@kariyakita-h.aichi-c.ed.jp
Website <http://www.kariyakita-h.aichi-c.ed.jp>
幼児児童生徒数 男子 525名 女子 675名 合計 1200名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～19歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「知行合一」(知識と行為は一体であり、本当の知は実践を伴わなければならないということ)を学校理念として、ESDを将来持続可能な社会づくりを担うグローバル人材育成に不可欠な取組であると捉え、ESDの実践を通して地球社会で起こっているさまざまな問題について学び、それを自分自身の問題として解決に向けて行動できる生徒の育成を目標とした。

具体的には、英語コミュニケーション能力の育成、多文化理解教育、国際交流の実践を柱に、①英語による日本文化の紹介活動、②多文化理解に係わる教育、③学校ESDによる地球規模の課題についての学習、④海外のユネスコスクールとの交流授業を行った。

① 英語による日本文化の紹介活動

9月に姉妹校であるオーストラリアの学校の生徒17名が来校した際、国際理解コースの生徒たちと交流授業を行った。生徒たちは紹介したい日本の文化(伝統遊び)をグループごとに選び、英語で説明・紹介を行った。オーストラリアの生徒たちと一緒に日本の伝統文化を楽しんだ。

② 多文化理解に係わる教育

自国文化を含めた様々な文化について学び、視野を広げるため、国際理解コースの生徒に対して計4回の国際理解講座とJICA中部研修を実施している。今年度の国際理解講座の内容は以下の通りである。

【平成29年度入学生】

- 第1回 演題「グローバル人財ってなんだ？」
講師 奥田 ひと美氏（公益社団法人青年海外協力協会）
- 第2回 ※国際理解講演として1～2年全員＋3年希望者を対象に実施
演題「わたしから始める、世界が変わる」
講師 浅野 陽子氏（日本国際飢餓対策機構 海外事業部）
- 第3回 演題「はじめて作る、楽しい短歌教室」（日本文化）
講師 犬飼 亮介氏（愛知県立明和高等学校教諭）

【平成28年度入学生】

- 第4回 演題「世界に誇る素晴らしい日本の伝統文化を知ろう」（日本文化）
講師 岩崎 正彌氏（皇學館大学 現代日本社会学部 准教授）

③ 学校ESDによる地球規模の課題についての学習

地球規模の課題を知り、解決策や今後の行動のあり方について自ら考える時間を国際理解コースの1、2年生で6時間ずつ設けている。今年度の2年生は「世界で働く！私の未来予想図」「みんなで考えよう！世界と食の未来」「チョコレートの真実」というテーマで2時間ずつ実施した。

④ 海外のユネスコスクールとの交流授業

学校ESDの一環として、1年生国際理解コースの生徒が韓国の姉妹校（ユネスコスクール）と交流授業を行った。「人と環境にやさしいまちづくり～ユニバーサルデザイン～」というテーマで、最後にはスカイプを通じた生中継の交流授業を通して学習の成果を発表しあった。



姉妹校の生徒に英語で「福笑い」を紹介



国際理解講演の様子



「フードロス」について学ぶ2年生



スカイプを通じた生の交流授業

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・ウェブサイト「世界一大きな授業 2017」(http://www.jnne.org/gce/)・ワークショップ教材「おいしいチョコレートの真実」(特定非営利活動法人 ACE) ガイドブック+教材キット・ACE ウェブサイト (http://acejapan.org/childlabour/materials/workshop-chocolate)・「写真で学ぼう! 『地球の食卓』 学習プラン 10」(開発教育協会 DEAR) 写真セット+冊子・DEAR ウェブサイト (http://www.dear.or.jp/book/book01_hungryplanet.html)・DVD「インビクタス/負けざる者たち」(ワーナー・ホーム・ビデオ)・Youtube 動画「Apartheid Explained」(公開者 AJ+)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

国際理解コースの生徒（1～3年生）に対して学校設定科目を設置し、その授業の中で ESD 関連の活動ができるよう教育課程に位置付けている。具体的には1年生で3単位（国際英語 A）、2年生で5単位（国際英語 B 3単位、国際文学研究 2単位）、3年生で4単位（国際英語 C）の合計12単位である。これにより、日々の授業を通じた ESD 活動の実践が可能となっており、毎年授業内容は国際理解部を中心に各方面と調整しながら決定して内容の改善に努めている。

また、国際理解コース以外の生徒に対しても ESD を実践するため、年に一度「国際理解講演」を学校行事として実施し、特に国際協力分野において国内外で幅広く活躍する講師の方の話の聞くことができる機会を確保している。

さらに、「ユネスコクラブ」という部活動を設け、特に国際理解や国際協力に対して積極的な生徒達が活動できる場としている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「国際理解部」という分掌を設け、その分掌を中心にユネスコスクール、国際交流、ESD 関連の取組を行っている。また国際理解部から、年度当初に各教科・分掌に「日々の学習や取組の中にできるだけ ESD の視点を加えていただきたい」という願いをし、年度末に各教科・分掌の1年間の取組をまとめた「校内 ESD カレンダー」を作成している。これにより、国際理解部以外の教員にも ESD の基本的な考え方を意識させ、ユネスコスクールとして学校全体での取組を目指している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評議員会（学校関係者評価委員会）を年に2回開催し、その中で本校の国際理解教育について報告を行い、学校内部・外部の評価委員の方から評価をいただいた。

また、国際理解活動に関する項目を含んだ学校評価アンケートを一部の保護者に対して行い、その結果を検証した。

それらの結果、本校のユネスコスクールとしての取組内容に関しては概ね良い評価が得られているものの、取組内容があまり十分にアピールされておらず、地域に知られていないという課題が明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校がユネスコスクールとして実施した取組を記載した「国際理解コースだより」を年に2回発行し、本校ホームページへの掲載と地域の中学校への配布を行っている。

また今年度は「東海地区ユネスコスクールフォーラムグッド・プラクティス校交流会」にて本校の取組を発表し、愛知・静岡・岐阜からの参加校に対して海外のユネスコスクールとの交流事例を紹介することができた。

しかし、地域や中学校に対する発信はまだ不十分であり、来年度以降発信方法および内容の改善が必要である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

刈谷市の市民協働課と協働で、「グローバル人財を活かしたESD推進メニュー」の作成に取り組んでいる。その取組の一環として、「グローバル人財(グローバルに働いた経験が豊富な地元の人材)」を本校に招いて、2年生国際理解コース生徒に対して講座を行った。

また、地元のNPO法人である「NIED」に協力していただき、韓国の姉妹校との交流授業では約10時間分のカリキュラム内容に対する助言や生徒に対してワークショップを2回実施していただいた。

ESDコンソーシアム愛知の援助を受けて、本校の教員がESDの全国大会に参加し、全国のユネスコスクール関係者と交流することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

韓国のユネスコスクールである韓国観光高校と姉妹校提携しており、毎年国際理解コース1年生がESD関連の交流授業を行っている。今年で4年目を迎える取組であるが、年度当初に共通のテーマを相手校の教員と相談して決めてそれぞれの学校で学習・研究をすすめ、秋頃にスカイプで生中継しながらお互いの成果を交換し合うという形を取っている。

今年度は、それに加えてペアの相手を決めた定期的な文通や「Classting」というSNSを通じたクラス間交流も実施した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校の交流相手であるユネスコス쿨の韓国観光高校が、2014年から今まで継続している本校との交流授業について高く評価され、京畿道教育庁から表彰を受けた。長年交流を続けている姉妹校として大変嬉しい出来事である。

また JICA のエッセイコンテストに応募した中から2名の生徒が佳作入賞したり、2月に行った国際理解講座（日本文化・短歌教室）で「食」というテーマで自由に短歌を作らせたところ、食糧問題やフードロスなど世界の食の問題についての短歌を作る生徒が複数見られるなど、地球規模の課題に対する生徒の意識の高まりも見られた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

①平成31年度以降に予定されている「国際教養科」開設に向けて準備を進める。具体的には国際教養科の学校設定科目の内容や授業計画の検討を行い、ESD の内容について体系的に生徒が学べるような独自教材の作成を目指す。

②引き続き姉妹校であるユネスコス쿨の韓国観光高校との交流を続ける。4月に韓国観光高校の生徒28名が本校を訪問する予定があり、充実した交流ができるよう計画を立てる。また、ESD 関連の交流授業も今年度同様実施できるように内容や日程について調整を進める。

③計4回の国際理解講座（国際理解講演1回を含む）や、国際理解コースに1～2年生に対する学校ESD、1年生に対するJICA 中部研修を実施する。

④ホームページの更新や国際理解コースだよりの内容改善に努め、本校のユネスコス쿨としての取組がこれまで以上に地域に発信できるようにする。

⑤各教科・分掌にESD を意識した取組をお願いし、引き続き校内ESD カレンダーを作成する。